

平成 27 年 2 月 25 日

総務省 情報通信審議会 情報通信技術分科会  
「第 2 回 技術戦略委員会」開催にあたってのコメント

シャープ株式会社  
副社長執行役員 技術担当  
水嶋 繁光

本日は、所用により前回会合に引き続きやむを得ず欠席させていただきますこと、お詫び申し上げます。第 2 回委員会の開催にあたり、下記、コメントさせていただきます。

【記】

◆（議論テーマ）研究開発、国際標準化、成果展開、知財戦略等の推進方策

《課題意識》

- ・今後の技術戦略はどうあるべきかを議論する際には、昨今の規格化特許に対する経済的な価値評価が下落傾向であることを認識した上で議論すべきではないか。
- ・『規格≡広くユーザがメリットを享受できること』とするならば、その意味で経済的な価値を低く見積ることは決して悪いことではない。しかしながら、リスクを取って規格関連技術の開発に早期に取り組む者に対する相応のリターンなくして、産業や技術の発展はあり得ないであろう。このバランスを妥当にするための基本的な考え方を世界に向けて提起していくことが、今後の日本の ICT 技術戦略を策定する上で求められる一つの役割だと感じている。
- ・残念ながら、我が国の ICT 関連の国際標準化寄与度や規格特許取得状況は、米・中・韓等と比較しても大きく見劣りする状況であり、ICT 産業の国際競争力を、中長期視点で戦略的に強化していく為の政策支援の在り方が課題と認識している。

《議論への期待》

- ・今後の日本の技術戦略の在り方としては、「規格部分」と「実装部分」を分け、且つ、それらを同期させ、同じ重みを持って研究開発に取り組むことが重要ではないかと考える。
- ・特に、「実装部分」においては、各国／企業が自らの得意分野に特化しグローバルでの水平分業を推進する傾向にある中、「具体的に日本国・日本企業として、また、日本発の技術として生き残って産業貢献する戦略は何か?」、「どの領域に特化して日本の強みを発揮するのか?」という方向性を明確化していく議論と戦略策定が求められる。
- ・日本政府として、特許価値をグローバルに明確化していく取り組みを推進し、且つ、産官学連携による環境整備に努め、「知財立国」を目指す中期戦略の立案に期待している。

以 上